

平成22年4月24日(土)

第402回 史跡めぐり

越谷「入門」史跡めぐり
案外知らなかった
越谷を歩く



中土手から眺めた 中央市民会館と越谷市役所

NPO 法人越谷市郷土研究会

第402回 史跡めぐり

実施日 平成22年4月24日(土)

参加費 500円(資料代、保険料等)

集合 越谷駅東口

時間 午前8時30分

コース

越谷駅 → 瓦曾根溜井 → 赤水門 → 中土手 →

久伊豆神社 <第三鳥居・三ノ宮卯之助の石・社叢・藤・

越谷吾山句碑・平田篤胤の碑> → 天嶽寺 <黒門・赤門

・越谷吾山の墓> → 建長板碑(市内最大・最古の板碑)

→ 逆川伏越(川の下を川が通る)・越谷御殿跡(家康が愛した御殿)

→ 日光道中(蔵造りも残る) → **越谷駅**

<解散 12時予定 歩行約7Km>

案内者 渡辺 和照

越谷市中心部の地図と

今日の案内コース



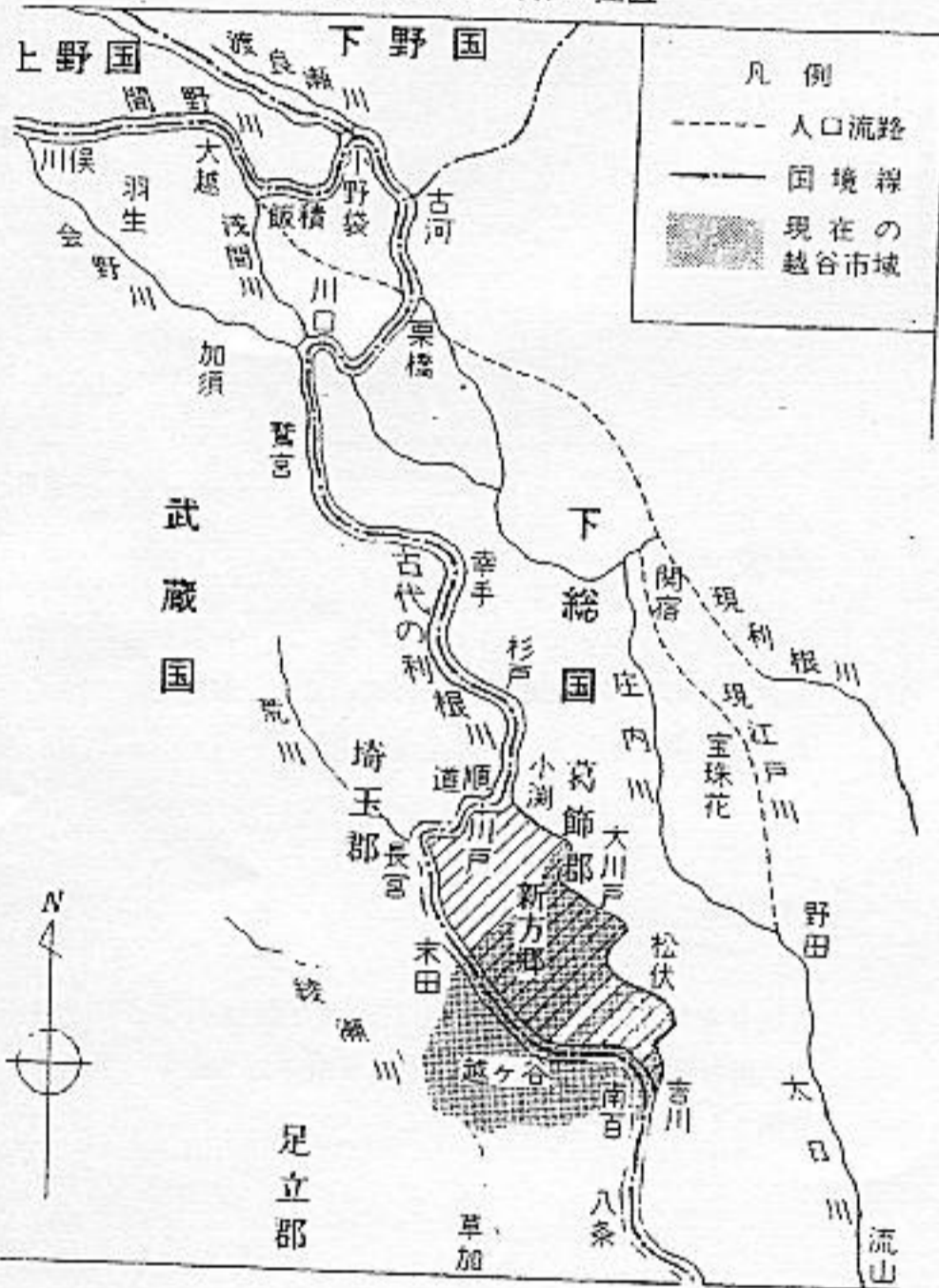
瓦曾根堰・溜井と葛西用水

☆ 瓦曾根溜井

寛永6年(1614)荒川の流れをせき止め溜井とし、八条用水・四ヶ村用水として利用した。



古代の国境と越谷の位置



☆ 洪水対策と新田開発

徳川家康江戸城入城後、関東平野の新田開発と洪水対策のため文禄3年(1594)より利根川の東遷工事を始めた。完成までに約60年かかった。

☆ 中島用水

水源を庄内領中島の利根川(現江戸川)に求め、寛永7年(1630)中島用水を造る

☆ 葛西用水

宝永元年(1704)の洪水により機能が低下した中島用水に替わり、享保4年(1719)上川俣(羽生市)の利根川に水門を増設し、幸手用水に加水した 用水の経路は

利根川 → 幸手用水 → 琵琶溜井(久喜市) → 古利根川 →
 松伏溜井 → 鷺後用水(逆川) → 元荒川 → 瓦曾根溜井
 葛西用水 → 亀有用水になった。

埼玉県水辺再生100プラン

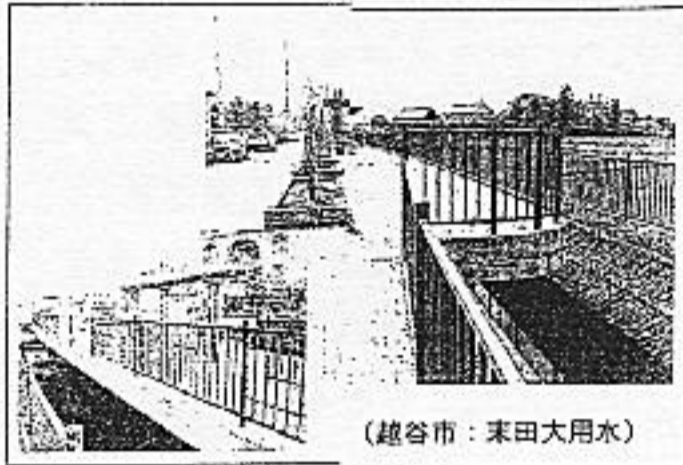
水と緑の田園都市・水辺再生事業(H22新規)

「谷古田用水路(取水口樋管)」

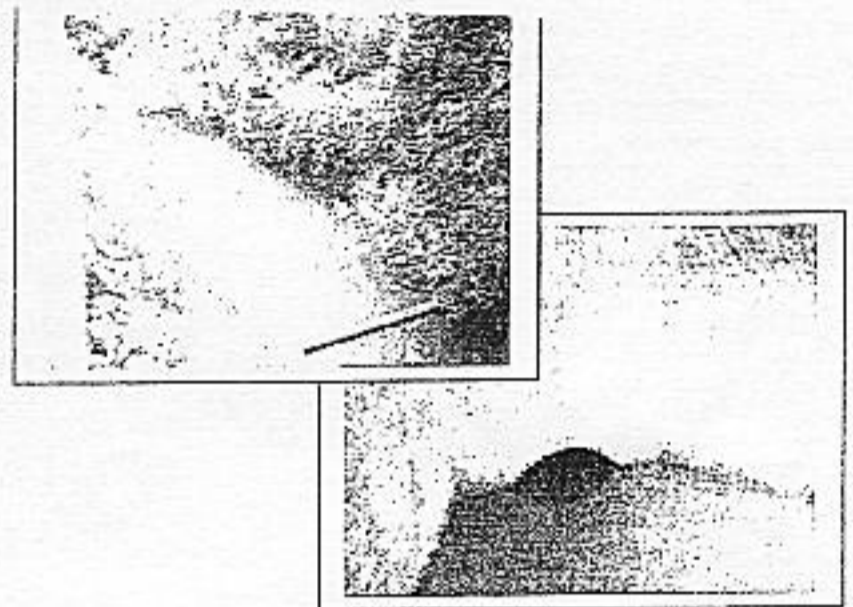
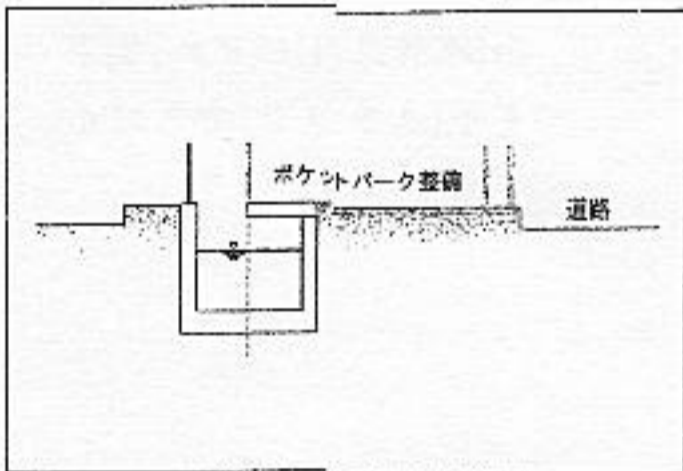
谷古田用水元々は明治24年に作られ、レンガ造りの樋管としては日本最古の施設です。今でも私たちの暮らしを支えています。

日本土木学会「日本の近代土木遺産」に指定

計画イメージ



断面図等



現状

谷古田用水樋管は明治24年に造られ、レンガ造りでは日本最古の樋管であると言われているが、保全がなされておらず、資産としての価値が生かされていない。

効果

樋管を中心としてポケットパークを整備することにより、越谷散策コースの一部として活用されるなど、地域の資産として生まれ変わる。

赤水門

☆ 赤水門とは

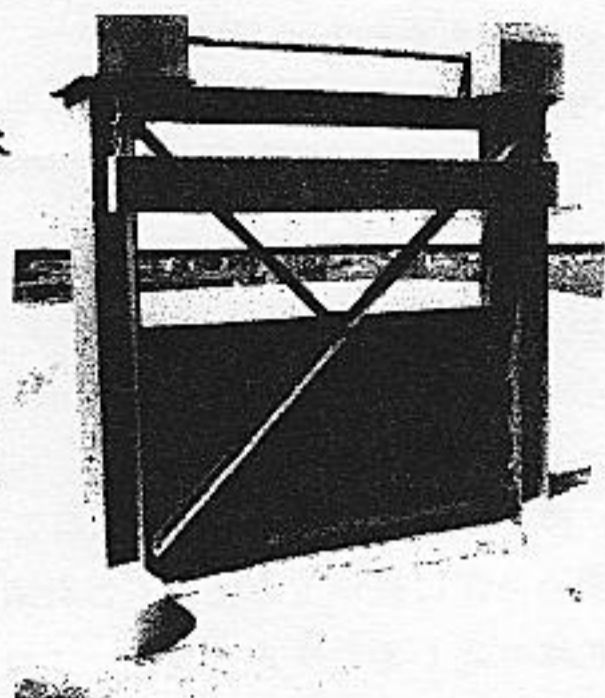
大正13年(1924)瓦曾根堰はこれまでの石堰を廃止し、鉄筋コンクリート造り鋼製水門10門の堰が築造され、錆止めの塗装が朱色だったため(赤水門)とよばれた。

☆ 伏せ越しと瀬割り

昭和41年(1966)排水と用水を分離するため、逆川の元荒川合流点を伏せ越にし、さらに瓦曾根堰までを瀬割り土手にした。また、溜井の規模を縮小した。

☆ 旧堰取り壊し

平成9年旧堰を取り壊し、現在の新堰2門を造成した。



中土手

昭和22年(1947)カスリーン台風で利根川堰の決壊により大水害が発生した。また越谷地方でも台風襲来のつど水害にみまわれた。これにより政府は国内状況が好転した25年頃より利根川、荒川を中心に河川の改修計画を立てた。

昭和35年(1961)瓦曾根溜井の用排水分離工事を進めた。

- 1 松伏溜井より逆川(葛西用水)を大沢地蔵橋地先で元荒川の下を通した。
(伏越という)
- 2 対岸の御殿町よりは新たに水路を開き、柳町地内で溜井に接続させた。
- 3 葛西用水と元荒川は分断した瀬割堰(中土手)を築き、瓦曾根堰(水門)までは二筋の独立した水路とした。昭和41年に完成した。
- 4 新平和^橋が新たに架設された
- 5 この時埋め立てられた敷地の内9000坪の払い下げを受けて、越谷市役所が昭和44年に完成し移転した。

☆ 元荒川フジバカマの里

フジバカマは、川の土手や河川敷などに生える植物で、万葉集にも歌われている。9月から10月に、白またはピンクの花を咲かせる。

☆ 越ヶ谷高校艇庫

4月下旬、葛西用水に水が入ると、越ヶ谷高校ボート部員の練習がはじまる。インターハイ、国体など上位入賞をめざして練習するボート部員の姿が見られる。



元荒川の桜の歴史

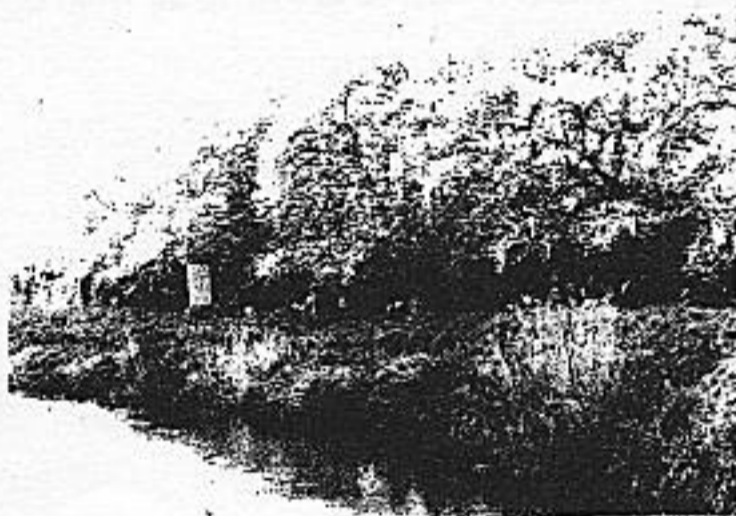
越谷の桜土手には百年の歴史がある

今から百年前、明治37・38年(1904・1905年)の日露戦争で辛勝し、勝利の記念事業として、桜を植えた。場所は瓦曾根から寺橋(今の宮前橋)の元荒川土手道の田んぼ側に植林され、昭和30年頃まで花見ができた。道路拡張工事で桜の木は切られてしまい花見ができなくなった。

☆ 紀元2600年(昭和15年)を 記念して植えられた桜 「興亜の桜」

昭和15年(1940年)紀元2600年、明治の桜に続いて寺橋近くの御殿町から東武線の近くまで植えられた。これを「興亜の桜」と呼んだ。

今は 西側の土手に記念碑のみ寂しく残されている。



☆ 戦後の桜 「北越谷の桜」

昭和31年、元荒川の兩岸に桜の苗木1200本を植樹した。

宮本町、神明町側の土手の桜は交通の妨げになるで、伐採されしまい寂しい。北越谷側の桜は見事な並木に成長し、名所になっている。

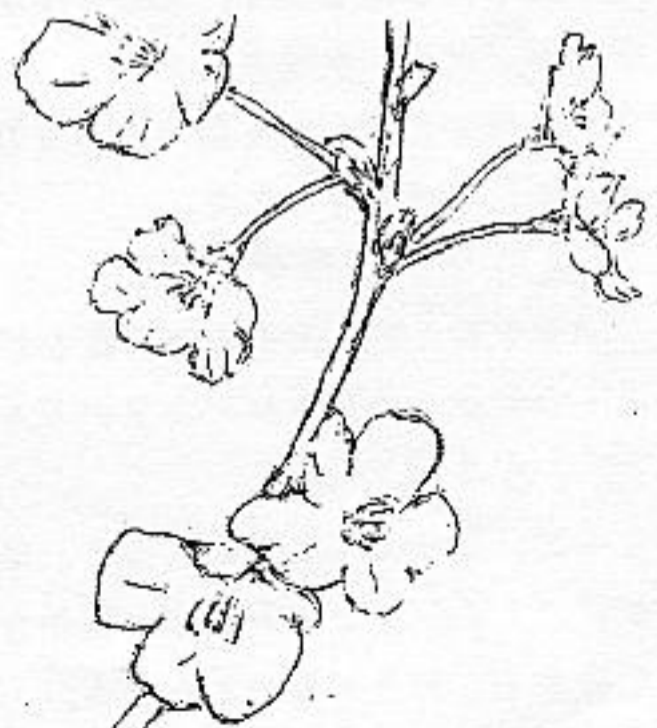
☆ 「ソメイヨシノさくらの由来」

「染井—栗鴨・駒込付近の地名 江戸時代に植木職人が多く住んでいた

染井の植木職人がエドヒガンサクラとオオシマサクラを掛け合わせそだてた雑種。

華やかで、美しく人々に好かれた。花言葉は「優しい美人」と言われている。

平均寿命は約80年位といわれている。



<三春の枝垂れ桜>

滝桜と言われ純粋種で千年の長きにわたり生き続けている。

久伊豆神社

主祭神は大国主命(おおくにぬしのみこと)、事代主命(ことしろぬしのみこと)が祀られ、江戸時代を通して、真言宗越谷山神宮寺迎摂院(こうしょういん)が別当を務めていた。

当社の創立年代は不詳ですが、社伝によると平安末期の創建といい、武蔵七党の野与党が創建にかかわっていると推測される。

古来、武門の尊崇を集めて栄え、室町時代の応仁元年(1467)に伊豆国(静岡県)宇

佐見の領主宇佐見三郎重之がこの地を領したとき、鎮守神として太刀を奉納するとともに社殿を再建したと伝えられている。江戸時代には、徳川將軍家代々の信仰があつかった。

当社は、除災招福、開運出世の神として信仰されている。"足止め"といって、家族が紐で狛犬(こまいぬ)の足を結ぶと家出人や悪所通いの人が戻って来るといわれている。久伊豆神社は昭和59年度に県から「ふるさとの森」の指定をうけた。



☆ 三ノ宮卯之助の力石

拝殿の右側境内に、メ縄で囲まれて台座に乗った力石があります。これは「奉納 天保二辛卯年(1831)四月七日 三ノ宮卯之助 五十貫目 本町会田権四郎」と刻まれている。

三ノ宮卯之助が五十貫目(187.5 kg)のこの石を持ち上げた記念に本町会田権四郎が記念として奉納したものです。

☆ 久伊豆神社社叢——越谷市指定記念物 名勝

本殿裏の社叢は原植生であるスタジイ林が残されている。その林相は、6m以上の高木層にはスタジイを中心にヒノキ、タブ、モチノキが茂っている。

スタジイ林が定着しているのはきわめて稀で、学術的にも高く評価されている。

☆ 越谷吾山句碑——越谷市指定 有形文化財 史跡



越ヶ谷吾山(越ヶ谷宿新町の名主・会田家6代会田文乃助)は俳人・国学者で安永4年(1775年)に、諸国の方言を分類、解説した「諸国方言物類称呼(ぶつるいしょうこ)」を著し、方言学の祖と称され、俳諧の師匠として法橋(ほうきょう)の位を授けられた。吾山の俳諧書には「翌檜(あすなろ)」や「朱紫(あけむらさき)」などある。

越谷吾山句碑は嘉永2年(1849)1月 建碑された

「出る日の 旅のころもや はつかすみ」
と刻まれている

☆ 平田篤胤

境内には、幕末の国学者「平田篤胤」の仮寓跡(県指定旧跡)や、篤胤の門弟が奉納したと言われている藤の老樹(県指定天然記念物)が枝を広げている。

天獄寺

天獄寺は浄土宗の寺で、本尊は阿弥陀如来である。

山号を至登山遍照院と称し、文明10年(1478)専阿源照の開山と伝えられている。

古くは小田原北条氏の城砦に用いられたといわれ、北条氏による寺領寄進状を蔵していた。

天正19年(1591)、徳川家康より高15石の寺領寄進朱印



状が交付されている。天獄寺は、雲光院、法久院、遍照院、善樹院、松樹院という五ヶ寺の塔頭がある、格式の高い寺であった。

当寺の山門は黒門であり、四代目の住職が正親町(おおぎまち)天皇(在位1557~1586)の第三皇子であったところから建てられた。屋根に「菊の紋章」の鉄鋳が施されている。

赤門は 天正19年(1591)11月、徳川家康より高15石の寺領寄進の朱印状が交付され、そのときに赤門が建立されたと伝えられている。

また、入口には庚申塚の小高い丘があり、文字庚申塔、青面金剛庚申塔など数多くの庚申塔がある。

釈迦仏の涅槃像(越谷市指定有形文化財)が安置され、

越谷吾山供養墓石(越谷市指定有形文化財)がある。

「ひとつるべ 水のひかるや けさの秋」



庚申塔

庚申信仰は道教の「三尸説(さんしせつ)」がもとになっている。これは60日ごとにめぐってくる庚申(かのえさる)の日に、人の体内にいる三尸というものが、人の寝るのを待って天の司命という神に、その者が60日間に犯した罪を報告し、司命はそれにもとづきその者の寿命を査定するという信仰です。

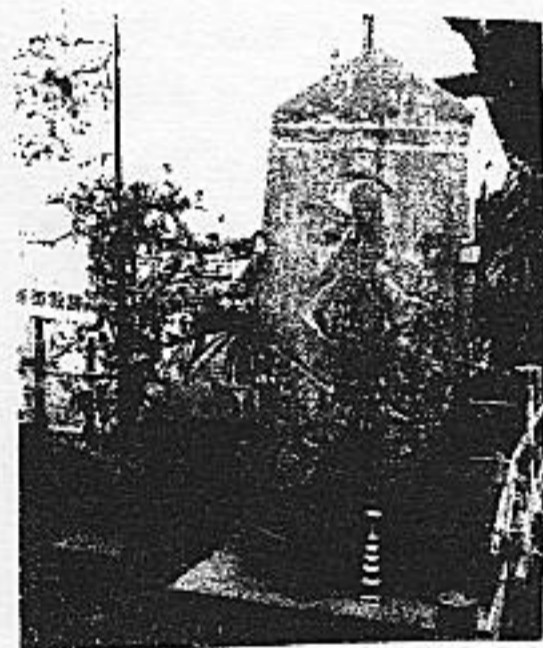
そのため庚申の晩は色欲を避けるなど精進し、一晚を寝ずに過ごすことによって三尸の上天を防ごうとしました。

民間信仰として広まり、庚申の日「庚申待ち」として徹夜をすることが行われた。庚申塔は講の結成や庚申待ちの何周年かを記念して建てられた塔である。



建長板碑 越谷市指定有形文化財

越谷周辺から発見されている板碑は、秩父の緑泥片岩で造られている。塔婆の一種であることから、板石塔婆とも呼ばれている。この板碑は、高さ155cm、横55cmで、板碑に建長元年(1249—鎌倉時代)と記されている。種子(仏をあらわした梵字)は弥蛇一字で、その彫りは深く、初期の板碑の特徴をよくあらわしている。



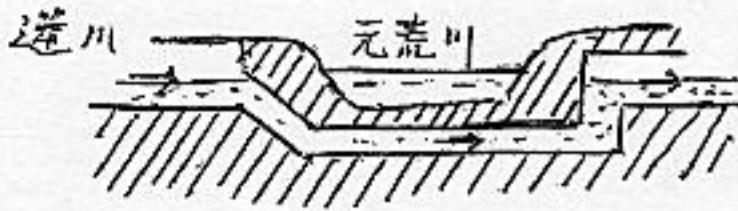
<板碑>

板碑の起源は、塔婆から変形した説、五輪から長足塔婆を経たものとする説がある。板碑は中世初期、鎌倉時代に旧荒川、入間川流域を中心として発生しました。越谷市内で、現在134基が確認され、大相模、荻島地域に多く見られる。市内の板碑は建長板碑が最古にして室町末期まで330年間続いた。

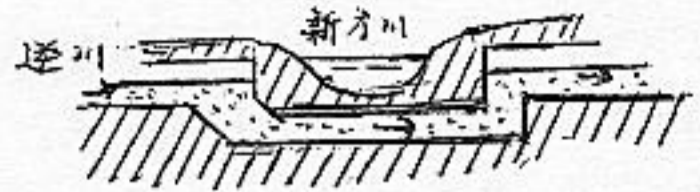
はじめは死者の菩提を弔い、後生善処を祈願して建てられた。のちになると、自己の死後の安楽を願って追善的な法事をあらかじめ行う逆善供養の造立が多くみられるようになった。

逆川の伏越

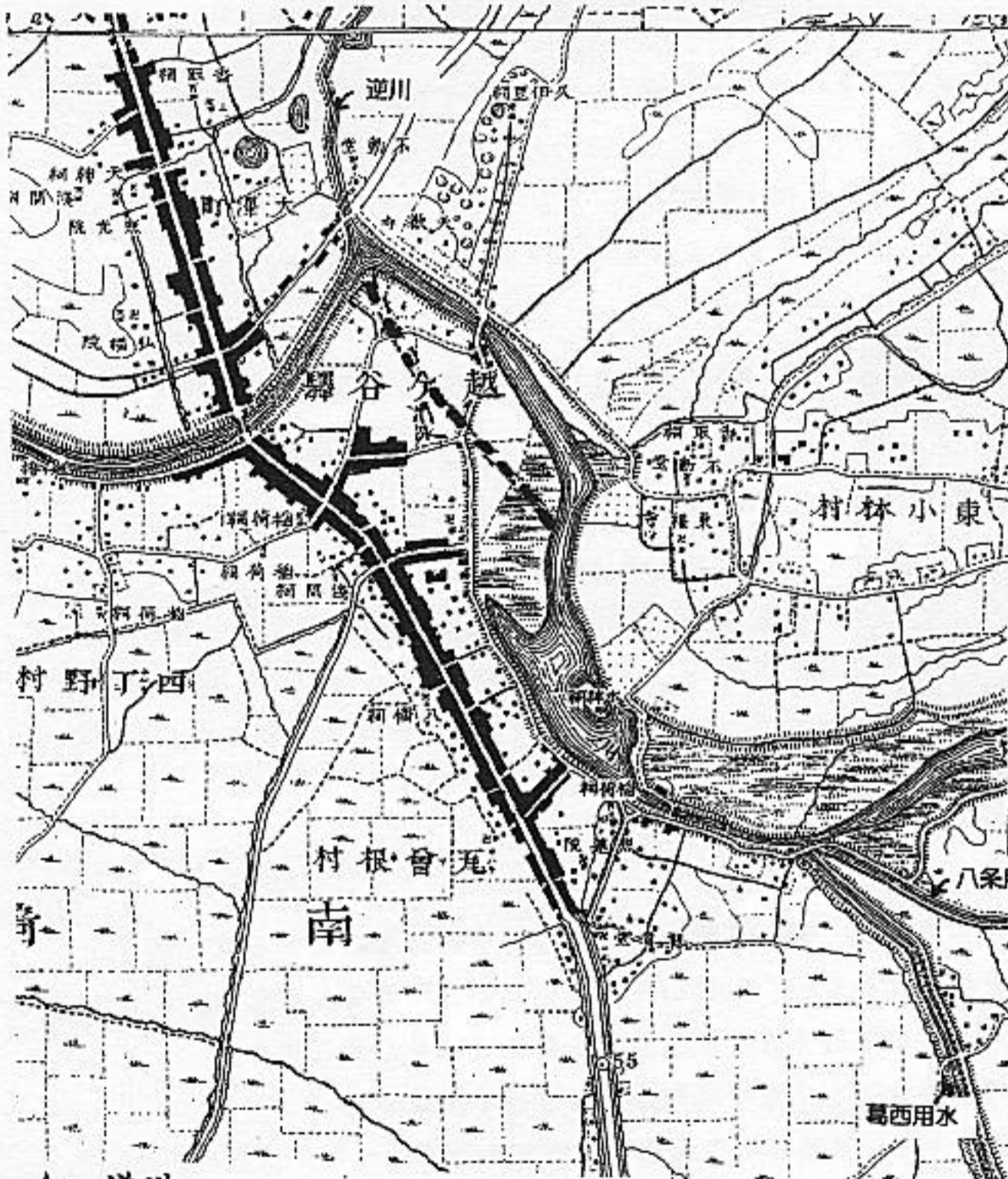
天鏡寺の前



定使野橋の所



明治初期の越谷の地図



元荒川が大雨や台風で増水すると元荒川の水が逆川(葛西用水)に流れ込み、逆川流域が水害の被害を受けた。そこで逆川の水をトンネルを通して元荒川の対岸側に流すようにした。



☆ 逆川

逆川とは潮位の上昇や合流先河川の増水で水が逆流する河川のことです。逆川と呼ばれる河川は北海道(月寒川)から岐阜県(木曾川の水系)までに全国に12河川があります。



越谷御殿

慶長9年(1604)に増林にあった茶屋御殿を越ヶ谷郷の土豪会田出羽資久の敷地内に移し、壮大な御殿を建造した。これを「越谷御殿」と称した。

家康は、しばしばこの御殿に宿泊し、民情視察を兼ね鷹狩りを重ねた。

ことに慶長18年(1613)には三度も訪れ、一日に鶴を19羽も捕捉したと記録されている。また、二代將軍秀忠^は一ヶ月も滞在し鷹狩に興じた。

しかし明暦3年(1657)1月の江戸大火で江戸城が全焼したため、急速越谷御殿を解体し江戸に運び、江戸城^{二の丸}の再建に用いられた。

越谷住民は御殿が江戸に移されてからも、將軍の別荘があった所として、その地を「御殿」と称し今に至っている。その面積は6町歩(約6ヘクタール)である。

日光道中

東武鉄橋のそば

「大野家の説明碑」由緒

昔、元荒川は荒川の本流で多くの交通は川を中心に発展した。此処は旧越ヶ谷町と四丁野村の境で、江戸との運搬に元荒川を利用、前の堤に石積の河岸や河船や筏があった。

江戸後期、此処に三連蔵や文庫・庭園のある大屋敷を構えていた。大野家が昭和31年1200本の桜を寄付され、現在の北越谷桜堤になっている。



日光街道越谷宿

☆ 道具屋半助(木下金物店)

日光街道越谷宿に、近在の百姓が使う鎌、鋤等を鍛冶屋で作らせ商いをしていた「道具屋半助」店がある。現在の建物は明治37年三度目の大火の後に焼け残った残材で建築されたものである。品物を守る為に店舗の裏に土蔵、石蔵、木蔵、トタン造りの4つの蔵を造り、品物を火災から守るうにした。現在八代目であり、店舗火災1年後に



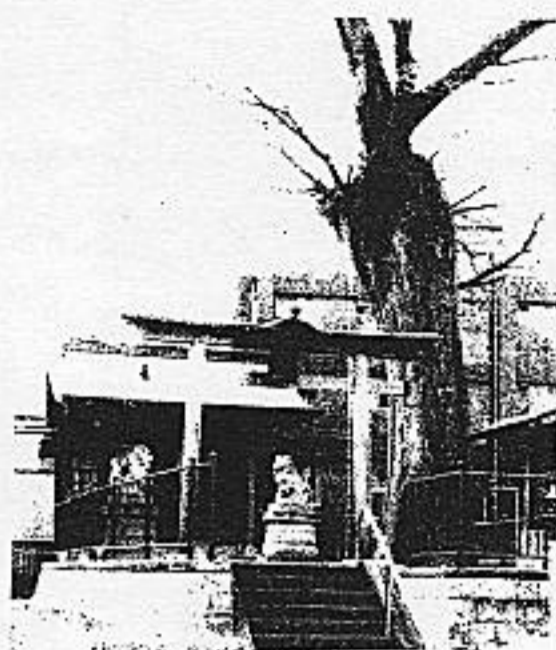
は裏に母屋を建築し現在に至っている。

☆ 浅間神社

江戸初期 土豪会田出羽が徳川家康から下付された本町、新町にまたがる区域を中町として起こし自らその名主・問屋になった。その過程で当社が中町の鎮守となる。

当社には、富士山と大日如来を打ち出した「懸仏」が伝わっている。

境内に聳える御神木・ケヤキは樹齢600年と言われている



☆有瀧家のタブノキ

タブノキはクスノキ科の常緑喬木で暖地に自生する

幹回り 3.7m 樹高 17m 樹齢400年以上と推定



西方

1. 道標付き文字庚申塔

〔側面〕
これより右市川まで五里

0 30 cm

葛西用水取水口



〔側面〕

これより右市川まで五里

〔右側面〕

これより左吉川へ吉里大さかみ内
これより右市川まで五里

※大さかみ＝大相模
※「これより右」を「房川

〔裏面〕
たび人の道しるべともかな
しるし石

(の渡し)「(栗橋)の利根川
にある渡し」とする説が
あるが、誤りである。

もぢはくちせぬのりの
かよいち

※道しるべを兼ねた庚申塔。上部にある梵字のウーンは青面金剛を表す。

※西方村の周辺は、近くは元荒川の downstream にある大相模の不動尊や吉川、元荒川の upstream にある慈恩寺(現、岩槻市)、遠くは下総国の市川(現、千葉県市川市)との人々の交流が見られていたであろう。ここから市川へ行く道筋は、当時も既にあった葛西用水路(下流は、現在の曳舟川につながる)に沿って南下したのであろうと、この石塔が今日まで残っていたお陰で推定できる。なお、葛西用水の東側隣に平行に南下して流れていた本所上水(下流は、龜有上水)は、前年の享保七年に廃止となっている。

※すぐそばに谷古田(やいた)用水の元以(もと)いりがある。これは、明治24年(一八九一)に作られ、現存する最古の煉瓦樋門であるという。越谷・流山線の道路南側にその名残がある。保存が望まれる。

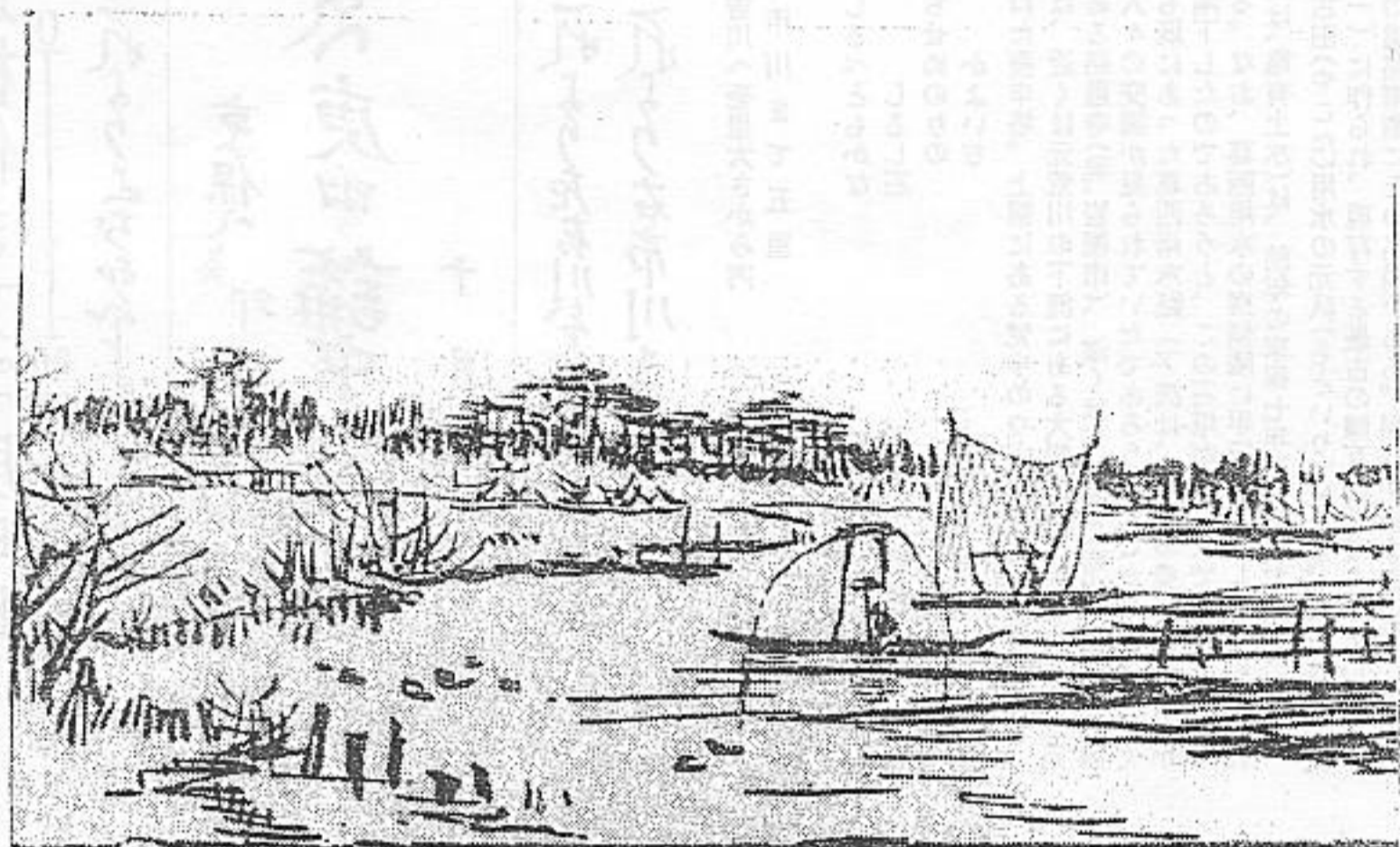
かわらそねためい

江戸時代後期の頃と思われる瓦曾根溜井の絵図

※わかりやすくするため、文字は楷書で書き、振り仮名を振り、川や用水は「」で表した。西方村旧記よりとる。文化年間頃の絵地図か。

作成者 加藤幸一





越ヶ谷附近の春色
 (東京より北方凡六里半)

<次の資料から引用しました>

- 1 越谷市観光協会作成資料
- 2 越谷市史 越谷市役所発行
- 3 川のあるまち
- 4 越谷 ふるさと散歩(上)
越谷市役所史編集室 昭和54 刊
- 5 埼玉平野の成立ち・風土 埼玉新聞社
- 6 郷土越谷散策マップ その他